

ぶらりまち紀行

博学狸 こんぴら三本足狸 … 福井町

もみじが色づく金刀比羅神社の境内に狸問答の声が響き渡る。400年もの間、地域で語り継がれてきたいたづら狸の物語を、後世に伝えようと、平成生まれの子どもたちが古の伝説に息吹を吹き込む。



神宮役 片山大暉さん(福井小6)

昔の言葉をつかって話すところが難しかったです。やり遂げたという達成感があります。



衣冠束帯に身をまとい狸問答を奉納する子どもたちと、それを見守る地域の人々



たぬき役 伊藤胆汰さん(福井小6)

片山君に誘われて役を引き受けました。長文を覚えるのが大変だったけど、経験できてよかったです。



説明役 原田杏花さん(福井中1)

今年で2回目の大役。みんなに分かるように、ゆっくりと説明することを心掛けました。



瀧本菜布きさん(上中町)

秋の例祭に訪れた参拝者にお菓子をもちました。

現在の福井町土佐谷における天保末から明治中期にかけてのお話。金刀比羅神社が鎮座する松琴山の森の奥に一匹のいたづら狸が棲んでいました。里に出ては人間をたぶらかし悪事を繰り返していた狸。ある夜、金びら淵でいつものように悪事を働こうと待ち伏せしていたところへ通りかかったのは、地元でも指折りの鉄砲名人の茂庄兵衛。そうとは知らず、小石を投げつける狸に、茂庄兵衛は後ろ向きのまま引き金を引いた。弾は狸の後ろ脚に命中。命からがら逃げ延びた狸は、それから三本足で歩くようになり、その姿を見た村人は、このいたづら狸を「金びらの三本足狸」と呼ぶようになった。

これできりなかつた狸は、その後も悪事を繰り返す。ある日の夕刻、森飛驒守丹平が夕神楽を奏上しようとして神前に登ると、神前には狩衣姿の森丹平が座っているではないか。「おのれは、何者じゃ。」「わしは、森飛驒守丹平じゃ。」「と、化けた狸が言い返す。問えば答え、せまれば問いかけ、流水の弁をふるってはなかなかシッポを出さない三本足狸。丹平はじつと見据え、「これつ、その笏の持ち方は何じゃ。持ち手が違うぞ。」「と大喝一声。世にも珍しい狸問答が繰り広げられた。

その後、改心した狸は、毎晩のように森丹平の屋敷に通い、軒下で丹平が村人に講じる学の道を修め、ついには一代の博学狸となった。そして、自らを松雲齋と号し、留守の神官に代わり夕神楽を奏上したり、他のいたづら狸に化かされ泣いている子どもたちを助けたり、阿波狸合戦の折には日開野の金長狸の相談役にもなったそう。

(参考) ふるさと福井のむかし話/イラスト…水口隆起さん



いたづら狸が村人を待ち伏せしていたと伝えられている金びら淵の全景



狸問答が奉納される前に行われる奉告祭。雅楽の生演奏にのせて儀式が行われるのが特徴的です。



境内には狸問答をした時に腰を掛けていたと伝えられている問答石と祠が祀られています。この祠は、もともと山のふもとにありましたが、参道を整備した際に境内へ移設したそうです。

編集室の窓

新年明けましておめでとございます。市民の皆さんとともに作る広報誌の思い出もまた1つ歳をとりました。10年ぶりに訪れた伊島で、少年消防隊の活動が40年目を迎えることを知り、ほぼ同じ年月を生きてきた私には何か運命的なものを感じました。ぶかぶかの消防服を着て防災ヘリに敬礼する姿が可愛らしく、無邪気な笑顔を見ていると、何か底知れぬ勇気と力が湧いてきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(山)